

さみどりベース
～言語の壁は学習の壁ではない～

要旨

現在日本の学校では、グローバル化に伴い外国籍の児童生徒が増加している。その中には日本語によって教育を受けるのに支障がある児童生徒も少なくない。教育、言語、SDGsの三つの観点からこの現状に問題意識を持ち、調査する上で高校生の立場でもできると気づき、実際に行動した。

1. 研究の動機と目的

グループメンバーのうち一人が教員を志望しており、もう一人が言語に関心があった。そこに Mie lab のテーマの一つである SDGs の要素を加えた結果、この問題に出会った。いずれ身近で社会的に大きな問題になると感じ、解決策を考えた。

2. 方法

現状について地方自治体や政府の資料を調べたのち、現場の声を聞くため実際に日々外国籍の児童生徒と関わっている二人の先生にお話を伺う。そして、現状の課題について改めて整理したあと、高校生の立場でできることを模索し、実行する。

3. 結果

お二人へのインタビューから、教科や日本語の質問を保護者にできないこと、生徒の教育にお金をかけられない家庭が多いこと、授業のスピードについていけないこと、外国籍の児童生徒だけで固まってしまう、日本籍の児童生徒と関わって日本語を上達させる機会があまりないこと、先生の業務が増えてしまうことなどの問題が分かった。このように、この問題には複数の切り口があり、その中には授業や金銭面の問題など学校や行政が対策すべきことも多く含まれる。

4. 考察

インタビューの中で「質問しやすい雰囲気を作るために勉強会を開いている」「コロナ禍を経て facebook を通じて生徒や保護者と連絡を取るようになった」ということ伺った。そのような「つながり」ができるコミュニティを、あくまで高校生の私たちだけでできる方法で運営することを決めた。各 SNS の利便性やアクセスのしやすさを考慮して facebook のグループ機能を使い、外国籍の生徒と日本籍の生徒が自由に交流できる生徒主体のコミュニティ、「さみどりベース」を開設した。

5. 結論

現在も試運転の期間中であり、目標の三十人には届かないものの、希望者含め約二十名の参加があった。まだ投稿数が少ないことから、話しやすい雰囲気や先述したような理想的な「つながり」は築けていないと考えた。それを打開するためには、運営側からの積極的な投稿の呼びかけと周知活動が必要である。質問や日常の話題などどんなことでも気軽に話せるような活発な状態のコミュニティにしていきたい。

※本文における「外国籍の児童生徒」とは家族の母語が日本語でないこと、あるいは出身が日本でないことにより、日本で教育を受けることに支障がある児童生徒を指す。また「日本籍の児童生徒」とは、日本で教育を受けるために十分な日本語能力を持つ児童生徒を指す。